

落窪物語

恩田満【日】 编著
徐仙梅 译

あらずへば 悲しかりける
愛儿放鷹誓相随

思ひにわぶ

不客

源氏物語

初雁は 恋しき人の 列

早雁当空多哀怨 疑是

かきつらね 昔のことぞ

ねども

远征大雁非旧友 縁何

心から

常世を捨てて

鳴く

るかな

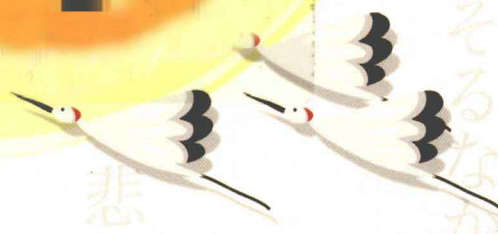
从来不管征鸿事 而今闻声倍凄凉



日本

作品选析

古代文学



悲しき

友なら

思ひけ



北京师范大学出版集团
安徽大学出版社

落窪物語

恩田満【日】 编著
徐仙梅 译

あらそへば 思ひにわぶ
悲しかりける
愛儿放鷹誓相随、不容中

源氏物語

初雁は 恋しき人の 列

平雁当空声哀然、疑是は

かきつらね 昔のことぞ

ねども

远征大雁非旧友、縁何何

心から 常世を捨てて 鳴く

るかな

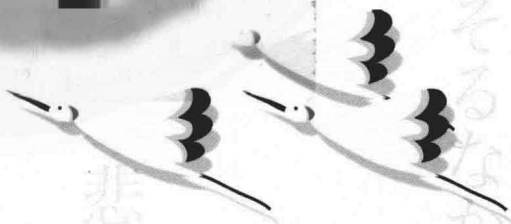
从来不管征鸿事、而今闻声倍凄凉。



日本

古代文学

作品选析



北京师范大学出版集团
Beijing Normal University Publishing Group
安徽大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日本古代文学作品选析/恩田 满〔日〕编著,徐仙梅译.
—合肥:安徽大学出版社,2011.4

(世界文学作品选读系列·日本文学)

ISBN 978-7-5664-0078-9

I. ①日… II. ①恩…②徐… III. ①古典文学—文学评论—日本
IV. ①I313.062

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2011)第 064518 号

世界文学作品选读系列·日本文学

日本古代文学作品选析

恩田 满〔日〕 编著 徐仙梅 译

出版发行: 北京师范大学出版集团
安 徽 大 学 出 版 社
(安徽省合肥市肥西路3号 邮编 230039)
www.bnupg.com.cn
www.ahupress.com.cn

印 刷: 合肥远东印务有限公司
经 销: 全国新华书店
开 本: 170mm×240mm
印 张: 21.25
字 数: 416 千字
版 次: 2011 年 4 月第 1 版
印 次: 2011 年 4 月第 1 次印刷
定 价: 39.00 元
ISBN 978-7-5664-0078-9

组稿编辑:刘中飞

装帧设计:武 迪 柳梦曦

责任编辑:刘中飞

责任印制:陈 如

特约编辑:张 雯

版权所有 侵权必究

反盗版、侵权举报电话:0551-5106311

外埠邮购电话:0551-5107716

本书如有印装质量问题,请与印制管理部联系调换。

印制管理部电话:0551-5106311

序 言

当前,学习日语的中国人逐年增多。迄今为止,以培养听说能力的语音教学为主,加之以训练读写的应用式教育,形成中国日语教育的主流。然而近十年来,人们越来越重视语言背景下对日本文化与文学的理解。

鉴于这一需要,笔者为中国的日语语言和日本文学学习者整理出了这部作品。尽管至今已有相当多的中日两国的研究专家或教师,出版了关于近现代日语和日本文学的大量优秀作品,然而对于日本的古典文学,我们不得不承认涉猎的人为数不多。

较之于对历史和社会现状的平铺直叙,日本的古典文学更加关注的是人心灵深处的爱和哀伤。对情感的抒情式描写是日本古典文学的一个特征。当然,其中也有深受中国儒教和佛教思想影响的一面。例如战乱时期的中世文学,处处流露着佛教的无常观。到近代之后,“智”的因素受到推崇,从而迎来了文坛的全面开花。

笔者意欲沿着古典文学的发展历程,对节选出来的各个时代的代表作品进行详细的解析,从而加深读者对日本传统文学和文化的理解。此外,笔者也深切希望读者通过学习古典文学作品,掌握含敬语在内的现代日语的使用方法,了解植根于现代日本人内心的传统的思维方式。

由于本书节选作品皆按时代顺序排列,因而读者会在最为难懂的“奈良时代”(上代)这一部分感到吃力,是不足为怪的。请广大读者对照“注释”、“解说”以及“现代版语译文”等部分仔细阅读,进入“平安时代”(中古)之后,作品将渐趋容易。或许将本部分内容作为对平安时代物语的入门学习,不失为一个良策。

关于本书的编辑,考虑到中国读者学习日本古典作品时的方便,特作如下解释:

① 文中出现的大部分汉字均有现代日语的假名注音,且以旧假名记载的正文部分也采取同样方式。

② 文中的日语汉字,原则上用当前通行的字体,至于日语常用汉字表里的汉字,则沿用其原有字体。

③ 关于文中的单词、惯用句,以及助动词、助词意思和用法的解释,尽可能为读者在注解部分呈上。

恩田 満

2011年4月

目 录

CONTENTS

第一部分 上代文学

古 事 記	/2
〔一〕 伊邪那岐命と伊邪那美命の国造り	/2
〔二〕 倭建命についての伝説	/6
万 葉 集	/11

第二部分 中古文学

竹取物語	/37
〔一〕 かぐや姫の生い立ち	/38
〔二〕 かぐや姫の告白	/43
〔三〕 かぐや姫の昇天	/48
伊勢物語	/54
〔一〕 初冠(第一段)	/55
〔二〕 東下り(第九段)	/58
〔三〕 筒井筒(第二十三段)	/62
古今和歌集	/67
仮名序	/67
〔一〕 よみ人知らずの歌	/69
〔二〕 六歌仙の歌	/72
〔三〕 撰者の歌	/84
土佐日記	/93
〔一〕 門出	/94
〔二〕 船出、亡児を思う	/97

[三] 三笠の山に出でし月	/101
大和物語	/106
[一] 峰のもみぢ葉(九十九段)	/106
[二] かささぎの橋(第二百二十五段)	/109
[三] 姨捨山の月(第百五十六段)	/113
落窪物語	/118
[一] 姫君の生い立ち	/118
[二] 中納言家の石山詣で	/125
[三] 少将、「落窪の君」が姫君の名と知る	/130
[四] 少将、姫君を救出する	/137
蜻蛉日記	/143
[一] 町の小路の女	/144
[二] 泔坏(ゆするつき)の水	/149
[三] 道綱、鷹を放つ	/153
源氏物語	/158
[一] 桐壺更衣	/159
[二] 光源氏の誕生	/164
[三] 更衣の形見の品	/171
[四] 物の怪の出現	/175
[五] 光源氏、若紫を発見する	/179
[六] 須磨の秋	/187
[七] 紫の上の逝去	/193
枕草子	/203
[一] 春はあけぼの(第一段)	/204
[二] 木の花は(第三十七段)	/208
[三] 二月つごもりごろに(第百六段)	/212
[四] 頭の弁の、職に参りたまひて(第百三十六段)	/217
[五] 雪のいと高う降りたるを(第二百九十九段)	/221
[六] この草子、目に見え(第三百十九段)	/223
更級日記	/231
[一] 門出	/232
[二] 足柄山	/236
[三] 源氏の物語	/241

〔四〕 悲しき影	/247
〔五〕 よもぎが露	/251
今昔物語集	/254
〔一〕 震旦の郭巨、老母に孝りて黄金の釜を得る語(巻九・第一)	/255
〔二〕 漢の高祖、未だ帝王に在まさざりし時の語(巻十・第二)	/261
〔三〕 藤原為時、詩を作りて越前守に任ぜられたる語 (巻二十四・第三十)	/266
〔四〕 丹波の国に住みし者の妻、和歌を詠める語(巻三十・第十二)	/270
大 鏡	/275
〔一〕 雲林院の菩提講(序)	/276
〔二〕 菅原道真の左遷(左大臣時平)	/282
〔三〕 宣耀殿の女御(左大臣師尹)	/290
〔四〕 弓の競射(太政大臣道長・上)	/298
〔五〕 醍醐天皇、貫之・躬恒の歌を賞美(昔物語)	/303
堤中納言物語	/309
〔一〕 このついで	/310
〔二〕 虫めづる姫君	/315
〔三〕 はいずみ(一)	/321
〔四〕 はいずみ(二)	/326
后記	/331
推荐书目	/332

第一部分 上代文学

上代文学概观

日本文学史将日本文学从诞生到平安迁都(公元794年)称为“上代”。其历史时期,包括了大和时代和奈良时代,即藤原京和平城京等,主要是大和地区(今奈良县)占据政治文化中心的时代。

当时,日本人尚不拥有自己的文字记载,只能以口传方式传承文化,而后随着对中国大陆汉字的引进,人们开始运用并适应这一文字记载方式,文学也才得以以汉字的形式表现出来。大约在公元7世纪,口传方式告终,文学迈向记述时代的同时,散文化之路也随之兴起。到公元8世纪,日本开始模仿中国唐代的政治、制度、文化等,以大和地区为中心,建立了天皇至高无上的律令国家。由此,国家为确立崭新体制的正当性,开始了历史典籍的编撰。口传文学流传下来的神话、传说和歌谣等经过人们整理,形成了神话故事集《古事记》和作为历史古籍的《日本书纪》。然而,用本是外来文字的汉字记载神话、歌谣等实非易事。为此,为忠于原传说,当时的日本人想出了将原语作为表意文字的汉字,转换成表音文字再使用的方法。由此,汉字则被音化为万叶假名,继而草书体被改写成平假名,偏旁部首演化成为片假名。此外,在从口传到笔头记述的演变过程中,派生自歌谣的和歌也独立发展起来,作为国民诗集的《万叶集》由此而诞生。

古事記



作品解説

《古事記》乃成书于奈良时代的日本最古老的历史古籍。全书共三卷。最初稗田阿礼奉天武天皇之命诵读帝纪和先代旧辞,随后元明天皇命太安万侶记录成书,并于公元712年献上。上卷为神代时代,中卷自神武天皇到应神天皇,下卷则收录了仁德天皇至推古天皇的记事,其中包含神话、传说和歌谣等,也叙述了以天皇为中心而统一的由来。

【一】伊邪那岐命と伊邪那美命の国造り



天つ神^{あまのかみ}①、諸^{もろもろ}の②命^{みこと}③もちて、伊邪那岐命^{いざなみのみこと}④・伊邪那美命^{いざなみのみこと}⑤二柱の神^{ふたはしら}⑥に、「このただよへる国^{くに}⑦を修め^{おさめ}⑧理^{つく}り固め成せ^{かた}⑨」と詔りて^の⑩、天の沼矛^{ぬほこ}⑪を賜ひて^{あめ}⑫、言依さし^{ことよ}⑬たまひき。かれ^い⑭、二柱の神^{ふたはしら}⑮の天^{あめ}の浮橋^{うきはし}⑯に立たして、その沼矛^{ぬほこ}を指し^{さし}おろして画きたまへば^え⑰、塩^{しお}こをろこをろ^お⑱に画き鳴して、引き上げたまふ時、その矛^{ほこ}の先^{さき}より垂り落つる^{した}⑲。塩^{しお}、累なり積もりて島と成りき^{しま}⑳。これ淤能碁呂島なり^{おのゑもろしま}㉑。

その島に天降りまして^あ㉒、天の御柱^{みはしら}㉓を見立て、八尋殿^{やひろどの}㉔を見立てたまひき。ここにその妹伊邪那美命^{いざなみのみこと}に問ひて、「汝が身は如何にか成れる^{なり}㉕」と曰りたまへば、「吾が身は成り成りて、成り合はざる処^{ところ}一処^{ひとところ}あり」と答へたまひき。ここに伊邪那岐命詔りたまはく^い㉖、「我が身は成り成りて、成り余れる処^{ところ}一処^{ひとところ}あり。かれ、この吾が身の成り余れる



処をもちて、汝が身の成り合はざる処にさし塞ぎて、国土を生み成さむとおもふ。生むことはいかに」とのりたまへば、伊邪那美命、「然善けむ^⑧」と答へたまひき。

ここに伊邪那岐命詔りたまはく、「然らば^⑨吾と汝とこの天の御柱を^⑩行き廻り逢ひて、みとのまぐはひ^⑪せむ」とのりたまひき。かく期りて^⑫すなはち^⑬、「汝は右より廻り逢へ。我は左より廻り逢はむ」と詔りたまひ、約りを^⑭競へて廻る時、伊邪那美命先に「あなにやし^⑮、えをとこを」と言ひ、後に伊邪那岐命、「あなにやし、えをとめを」と言ひ、各言ひ^⑯竟へし後、その妹に告げて、「女人先に言へるは良からず」と曰りたまひき。然れども^⑰、くみに^⑱に興して^⑲、子水蛭子^⑳を生みき。この子は葦船に入れて流し去てき。次に淡島^㉑も生みき。こも^㉒例には入らず。



- ① 天つ神…天神。相对于“国神”(天神降临以前，负责治理国土的土著神灵)。高天原神。
- ② 諸の…全体的。全部的。
- ③ 命…话。出自“御言(みこと)”。
- ④ 伊邪那岐命…奉天神之命，与伊邪那美命同造淤能基吕岛之后，下到凡间生育国土和神灵的男性神灵。
- ⑤ 伊邪那美命…同上的女神。传说此二神乃兄妹。
- ⑥ 二柱の神…“柱”是形容神佛等高贵人的数词，也用来计算遗骸。
- ⑦ ただよへる国…漂浮的国土。呼应前文，“国稚く浮ける脂の如くして、海月なす漂へる時(新成国土好比浮脂，只能如水母一般浮游海面的时期)”
- ⑧ 国を修め…修整国土。
- ⑨ 理り固め成せ…修固吧。
- ⑩ 詔りて…命令。说。“詔る”是“言ふ”的尊敬语(用与表达对对方的敬意)。
- ⑪ 天の沼矛…天神赐予的玉饰长矛。
- ⑫ 賜ひて…赐予。赏赐。“賜ふ”是“与ふ”的尊敬语，也写做“給ふ”。
- ⑬ 言依さし…依赖。委任。
- ⑭ かれ…1) 因此。所以。接续词，表示承前得出相应结果，引起某事发生。2) 且说。可是。接续词，置于段首，用于提起话题。
- ⑮ 天の浮橋…想象中连接天地的梯子。
- ⑯ 画きたまへば…一搅动。“たまへ”是表尊敬的补助动词“給ふ”的已然形；“ば”是助词，表确定条件。
- ⑰ 塩こをろこをろ…搅得潮声轰隆。

- ⑮ 成りき…变成。“き”表过去,是助动词的终止形。
- ⑯ 淤能基呂島なり…是淤能基呂岛。该岛为想象的存在,意为“自行凝固而成的岛”。“なり”是判断助动词,接于体言或连体形之后。
- ⑰ 天降りまして…从天上下到凡间。这里的“ます””写为“坐す”,是补助动词,表示尊敬。
- ⑱ 天の御柱…神圣的柱子。
- ⑳ 八尋殿…规模宏大的宫殿。“八”表示数量多,“尋”则指两手左右伸开的长度。
- ㉑ 如何にか成れる…长得怎么样了?“る”是完了存续助动词“り”的连体形。与前面的提示助词“か”相呼应,译为“处于……状态”。
- ㉒ 詔りたまはく…说。“詔り”与“曰り”“告り”相同。“たまは”是表尊敬的补助动词,现代日文译作“お～になる”“～なさる”。“く”是接尾词,类似于“言ふ”“思ふ”等,与提示引用内容的“～することには”“～するのは”意思相同。
- ㉓ 然善けむ…那好吧。“然”是副词,意为“那样”。
- ㉔ 然らば…如果那样。要是那样的话。接续助词“ば”置于未然形之后,表示假定。
- ㉕ みとのまぐはひ…性行为。行夫妻之礼。
- ㉖ 期りて…相约。同于“約りて”、“契りて”。
- ㉗ すなはち…副词,马上、立刻、当即。
- ㉘ あなにやし、えをとこを…哎呀,真是个好男子!“あなに”,表感叹,“真是”的意思。“やし”表示感动。“え”极好。表示爱慕之意。
- ㉙ 然れども…然而。即便如此,但是。
- ㉚ くみどに興して…入室行夫妻之礼。“くみど”乃“编成格子的门”,即卧室。“興して”,指开始夫妻之事。
- ㉛ 水蛭子…残障儿。像腿萎缩而不得站立的水蛭一般的婴儿。
- ㉜ 淡島…没造成一座想象中的岛。
- ㉝ こも…这个孩子也。

現代語訳

天の神、一同のお言葉で、イザナキノミコト・イザナミノミコトの二柱の神に、「この漂っている国土をよく整えて、造り固めよ」と仰せになって、神聖な矛を授けて委任なさった。そこで、二柱の神は、天地の間に架けられたはしごの上にお立ちになって、その矛を下におろしてかき回しなさったとこ

译文

天神诏示伊邪那岐命和伊邪那美命二神,道:“且去将浮游国土修固,”并授予神圣玉饰长矛。由此,二神立于天地之梯,将长矛伸入下界来回搅动,引得潮水轰隆,此时矛尖滴落



ろ、潮をごろごろとかき鳴らして引き上げなされる時、その矛の先から滴り落ちる塩水が、重なり積もって島となった。これが淤能基呂島である。

二柱の神は、その島にお降りになって、神聖な柱を立て、広い御殿をお建てになられた。そして、イザナキノミコトが女神のイザナミノミコトに尋ねて、「そなたの身はどのように出来ているか」と仰せになると、女神は「私の体はだんだん出来上がって、出来たりない部分が一カ所あります」とお答えになった。そこでイザナキノミコトが仰せになるには、「私の体はだんだん出来上がって、成り余った部分が一カ所あります。そこで、この私の体の成り余った部分で、そなたの体の出来たりない部分をさしふさいで、国土を生みだそうと思う。生むことはどうだろうか」と仰せになると、イザナミノミコトは「それでよいでしょう」とお答えになった。

そこで、イザナキノミコトが仰せになるには、「それでは私とそなたとでこの神聖な柱を回ってから逢って夫婦の契りを結ぼう」とおっしゃった。このように約束してすぐさま、「そなたは右から回って逢いなさい。私は左から回って逢いましょう」と仰せになり、約束通りに回る時、イザナミノミコトが先に「ああ、何てすばらしい男性でしょう」と言い、その後でイザナキノミコトが「ああ、何てすばらしい女性でしょう」と言い、それぞれが言い終わった後で、男神が女神に告げて「女が先に言ったことは良くない」と仰せになられた。しかし、二柱の神は、寝所にこもって夫婦の契りを結んで、不具の子どもを生んだ。この子は葦の船に乗せて流して捨てた。次に淡島も生んだ。この子も生んだ子の数には入らなかった。

の海水凝聚成島，这便是淤能基呂島。

二神下到此岛，立起神柱，建起了规模宏大的宫殿。而后，伊邪那岐命问伊邪那美命道：“你身体长得如何？”女神答道：“已基本长好，只是尚有一处未长合。”于是伊邪那岐命提议道：“我身也渐趋完好，只是多出来了一处。不如，将我身多余之处插入你尚未长合之处共生国土如何？”“那好吧，”伊邪那美命答道。

由此，伊邪那岐命又提议道：“我们围着这根神柱走，在相遇的地方结合吧。”如此约定后，伊邪那岐命还补充道：“那你从右边，我从左边，绕着走吧。”这样如约相遇时，伊邪那美命先说道：“哎呀！真是个好男子！”之后伊邪那岐命也说道：“哎呀！真是个好女子！”但说完之后，男神便对女神说：“女人先说话了，不吉利啊。”二神入室结合，却产下一残障婴儿。遂弃之芦苇船，让其顺水流去。接着又生下淡岛。却也未将其算入所生孩子的数量之内。

解説

伊邪那岐命和伊邪那美命二神乃兄妹，此二神在生育国土和神灵之前便下到淤能基吕岛，结合产下了残障之子。关于淤能基吕岛形成的传说，大概是基于淡路岛的居民们煮海水制盐这样一个历史背景而成立的吧。

关于女方先求爱不吉利这样一种观点，一般认为这不是日本的土著思想，而是受到了古代中国思想的影响。在中国，古有道教思想家关尹子的《三极》，里边写道：“天下之理，夫者唱妇者随。”此后与之相关的还有儒家孟子的教导“父子有亲，君臣有义，夫妇有别，长幼有序，朋友有信”。“女人先说不吉利”的说法之所以存在，我们可以看做是基于这样一些男尊女卑的思想而来的，然而更为根本的原因，应该还是触犯了兄妹近亲结合的伦理禁忌。正因如此才导致了水蛭子这样一个残障儿的降生。

此后，二神又相继产下了淡路岛、四国、九州等。而关于生育神灵，传说他们生下了大量的神之后，还生下了皇室祖神的太阳神，即“天照大神”，以及月神“月读”。太阳象征女性，月亮象征男性这一传说，或许源自母系社会，但在亚洲各地神话传说中均有涉及，而在日本列岛，也早在阿依奴的叙事诗《ユーカラ》里提及了。

問題

1. 《古事记》是谁命令谁编撰的？
2. 其编撰目的是什么？
3. 对于日本列岛“生育国土”的神话，你的看法如何？

【二】倭建命についての伝説

本文

天皇^①、倭建命^②に詔りたまはく、「東の方十二道^③の荒ぶる神^④、またまつろはぬ人等^⑤を言向け和平せ^⑥」とのりたまひて、吉備臣等の祖、名は御鋤友耳建日子^⑦を副へて遣はしし時、ひひらぎの八尋矛^⑧を給ひき。かれ^⑨、命を受けて罷り行でましし



時^{とき}、伊勢^{い せ}の大御神宮^{おお み かみのみや}に参入りて、神^{かみ}の朝廷^{みかど}を拝みて、すなはち^{すなはち}その倭倭比売命^{おのやまと ひめの}に白したまひけらく^{みこと}は、「天皇既に吾を死ねと思ほすゆゑか^{みこと}、何とかも^な西の方^{にし かつ}の悪しき人等を撃ちに遣はして、帰り参上り来し間^{すで}、未だ幾時^{いく とき}もあらねば^い、軍衆^{いくさ ぐん}を賜はずて^{たま}、今更に東の方十二道の悪しき人等を平けに遣はすらむ。これによりて思惟へば、なほ吾既に死ねと思ほしめすなり」とまをしたまひて、患へ泣きて罷ります時に、倭比売命^{おのやまと ひめの}、草那芸劍^{くさな げん}を賜ひ、また御囊^{みふくろ}を賜ひて、「若し急かの事あらば、この囊の口を解きたまへ」とのりたまひき。

かれ、尾張国^{おわり のくに}に到りて、尾張国造^{おわり のくにのみやつこ}の祖、美夜受比売^{みよ へ}の家に入りましき。すなはち婚ひせむ^{まごめ}と思ほししかども、また還り上らむ時に婚ひせむと思ほして、期り定めて東の国に幸でまして、悉^{ことごと}に山河^{さんが}の荒ぶる神、まつろはぬ人等を言向け和平したまひき。

かれ、ここに相武国^{さきのくに}に到りましし時、その国造^{くにのみやつこ}詐りて白さく、「この野の中に大沼あり。この沼の中に住める神、いとはやぶる神^のなり」とまをしき。ここにその神をみそなはしに^あ、その野に入りましき。ここにその国造^{くにのみやつこ}、火をその野に著けき。かれ、欺かえぬ^{あざむ}と知らして、その倭倭比売命^{おのやまと ひめの}の給ひし囊^{みふくろ}の口を解き開けて見たまへば、火打^{ひうち}その裏にありき。ここに先づその御刀^{みは かた}以ちて草を斫り撥ひ、その火打以ちて火を打ち出でて、向火^{むかいび}を著けて焼き退けて、還り出でて皆その国造^{くにのみやつこ}どもを切り滅ぼして、すなはち火を著けて焼きたまひき。かれ、今に焼津^{やきつ}と謂ふ。



注

- ① 天皇…此处特指传说中的景行天皇。据传在其统治下，熊袭与虾夷得以平定。
- ② 倭建命…传说中的英雄，见于《古事记》和《日本书纪》。景行天皇的皇子。据传其因残暴而遭流放，被遣去讨伐九州熊袭、东国虾夷等。
- ③ 十二道…“道”即国，十二道指的是位于东海道的伊势（三重县）、尾张（爱知县西部）、三河（爱知县东部）、远江（静冈县西部）、骏河（静冈县东部）、甲斐（山梨县）、伊豆（静冈县东部）、相模（神奈川县）、武藏（东京都）、总（千叶县）、常陆（茨城县）、陆奥（青森县）等十二国。
- ④ 荒ぶる神…恶神。不服从天皇命令的神。
- ⑤ まつろはぬ人等…不服从的人们，乱民。
- ⑥ 言向け和平せ…将其平定吧。“言向く”，使……服从。“和平す”，将……平定。
- ⑦ 御鋤友耳建日子…指景行天皇派往侍奉倭建命的吉备武彦。

- ⑧ ひひらぎの八尋矛…在棍子的顶端加上刀的武器。“杵”是避邪的树木，“矛”则被认为是
有神灵附体的武器。
- ⑨ かれ…同(一)文注释⑭。
- ⑩ 罷り行でましし時…退下的时候。“罷る”表示从贵人面前退下,退出。“まし”是表尊敬
的补助动词。同(一)文注释⑩。“し”,过去助动词“き”的连体形,日文译为“～た”。
- ⑪ 伊勢の大御神宮…伊势神宫。位于三重县伊势市。祭祀皇家祖先的神宫。
- ⑫ 神の朝廷…相传伊势神宫乃祭祀皇家祖神天照大御神的神界最高府第,故而称之为“朝
廷”。
- ⑬ すなはち…同(一)文注释⑭。
- ⑭ 倭比売命…传说中垂仁天皇的皇女。据传其在外甥倭建命出征东国时,授予了他草雉剑。
- ⑮ 白したまひけらく…如此说道。“白し”同“申し”。“たまひ”和“く”参照(一)文中注
释⑭。“けらく”,过去助动词“けり”的ク形用法,日文译为“～であったことには”。
- ⑯ 思ほすゆゑか…是否想。“思ほす”是“思ふ”的尊敬语,相当于“お思いになる”,“ゆゑ”用
于说明原因和理由。
- ⑰ 何とかも…为什么呢?
- ⑱ 未だ幾時もあらねば…还没过多久。“ねば”与前面的“も”连用,日文译为“～ないのに”、
“～ないうちに”。
- ⑲ 軍衆を賜はずて…又不派兵。“軍衆”指大批的士兵,军队。“賜は”是表尊敬的助动词“賜
ふ”的未然形,相当于“給は”。“ずて”,否定助动词“ず”与接续助词“て”的组合,日文译为
“～ないで”。
- ⑳ 草那芸剑…据《古事记》与《日本书纪》记载,此剑乃须佐之男命灭八歧大蛇之后从蛇尾出
来的。而后日本武尊倭建命挥剑斩草方才幸免于难,故得此名。
- ㉑ 尾張国…旧国名之一,相当于现在的爱知县西部。
- ㉒ 美夜受比売…尾张一豪族之女,倭建命的妃子。
- ㉓ 婚ひせむ…成亲吧。结婚吧。
- ㉔ 相武国…旧国名之一,相当于现在的神奈川县。与“相模国”相同。
- ㉕ ちはやぶる神…害人之神。恶神。
- ㉖ みそなはしに…为了看。“みそなはす”,“見る”的尊敬语,看。
- ㉗ 欺かえぬ…被骗了。“え”,上代表被动的助动词“ゆ”的连用形。“ぬ”,完了助动词的终
止形。
- ㉘ 火打…打火石和打火金。使两者相碰而取火。
- ㉙ 御刀…贵人持有的刀。此处指草雉剑。
- ㉚ 向火…指为减弱荒原的火势,从这头点火,从而达到以火攻火。也可单指烧荒的火。
- ㉛ 烧津…相当于现在的静冈县烧津市。



現代語訳

天皇がヤマトタケルノミコトに仰せられるには、「東方十二ヵ国の荒れすさぶ神や、また服従しない人々を平定し従わせよ」と命じて吉備臣どもの祖先の、名はミスキトモミミタケヒコという人を添えて遣わされる時、柊の長い矛をお授けになった。そこで、ヤマトタケルノミコトは、勅命を受けて東国に下ってお行きになる時、伊勢の大神宮に参詣し、寝殿を礼拝し、すぐさまその叔母のヤマトヒメノミコトに申し上げなさったことには、「天皇は、まったく私に死ねとお思っているからでしょうか、どうしてかまあ、西の方の悪い人々を討ちに遣わして、都に帰り戻ってきてから、まだ幾らも時が経っていないのに、兵士もくだらないで、今度はさらに東国十二ヶ国の悪者どもの平定に私を遣わしなさるのでしょう。これによって考えますと、やはり私など完全に死んでしまえと、天皇はお思いなのです」と申し上げなさって、嘆き泣いて出立なさる時に、ヤマトヒメノミコトは草薙の剣をお授けになり、また袋をもお与えになって、「もし、火急のことがあったら、この袋の口をお開けなさい」と仰せになった。

こういう訳で、尾張国に着いて、尾張国の国造の祖先、ミヤズヒメの家にお入りになった。そして結婚しようと思ったけれども、また帰還するときに結婚しようと思って、契りを定めて東の国にお行きになって、ことごとく山河の人を害する神、また従わぬ人どもを言葉でもって服従せしめ鎮めた。

こうして、ここに相模国に着いた時、その国造が偽って、「この野の中に大沼があります。その沼の中に住む神は、甚だ威力ある神です」と申し上げた。そこで、ヤマトタケルノミコトはその神をご覧になるために、その野にお入りになった。

译文

天皇命日本武尊倭建命“且去平定了东方十二国之恶神乱民”，并派了吉备臣的祖先、一名为御锄友耳建日子的女子跟随，授予了倭建命柊树长矛。由此，日本武尊倭建命便启程东征，临行之前前去参拜伊势大神宫，进到寝殿，立即对他的叔母倭姬命哭诉道：“天皇似乎希望我去死。不然，为何派我西征恶人，归来不久又立刻遣我东征十二国呢，甚至不加派兵力。如此看来，天皇也许在想，我这等人死了更好吧。”闻此，倭姬命授予其草薙剑和一个袋子，叮嘱道：“若遇危难，切记打开此袋。”

如是这番，倭建命来到尾张国建国者的家中，欲与宫簀媛（美夜受比売）成亲，转而又想，东征凯旋之后再结不迟，于是订下婚约之后去了东国，将危害山河百姓的恶神乱党全部镇压收服了。

如此到达相模国之时，其建国首领谎称：“这原野中有大沼泽。沼泽中居一神，威力无比。”听罢，倭建命为一睹此神风采，进入了原野。